長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者　馬場 隆
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

# 「刺激になった」「元気をもらった」

## 夏季教研に未組合員7人を含む52人が参加

今年度の夏季教研は、8月11～12日に川棚町のくじゃく荘で開催されました。同日に行われた採用試験対策学習会（小論文）の参加者が、学習会終了後に教研に参加してくれたこともあって、未組合員が7人参加し、全体で52人（退職者2人を含む）の参加となりました。

11日には、「教育の市場化を超え協同的な学びへ」と題して、和歌山大学教授の江利川春雄先生に記念講演をしていただきました。その後、4つの分科会（①平和・人権教育、②生活指導・自治的活動、③登校拒否・不登校・特別支援教育、④民主的学校づくり）に分かれて、12日の午前中まで討議を行いました。その中から、記念講演の要点についてお伝えします。

夏季教研の開会集会

### 教育の市場化

江利川先生は、まず、現在の教育政策の出発点として、2013年に自民党教育再生実行本部が「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」で「グローバルに活躍する人材を年10万人養成」と打ち出し、教育を経済政策の手段とし、同世代の中の1割のエリートの育成をめざす方針が出されたことを指摘しました。そして、こうした教育政策が官邸主導で持ち込まれる中で、大学入試での英語の民間試験の導入等、教育の条理を無視した無茶な英語教育が進められようとしている状況が語られました。また、楽天から文科省に出向した社員が文科省で英語教育改革を担当したことや、ベネッセが元文部科学事務次官を理事長にしてGTECを共催する財団法人を作っていることなど、民間企業が教育行政に大きく関わっている事実を指摘しました。

### 協同学習で全員に学びを

江利川先生は、教育の市場化への対抗軸として協同学習の実践を提起した上で、文科省が掲げる「主体的で対話的で深い学び」と協同学習は近い所と遠いところがあるとして、近いのは、従来の座学ではなく主体的な学びをめざす点で、遠いのは、一部のエリートを育てるのか、全員を育てるのかという点だと指摘しました。

そして、協同学習のやり方として、次の4点をあげました。

①チームビルディング活動で「学び」の土壌づくり
②目標・授業の流れ・ルールの明示で自律学習へ
③全員が役割を分担し、高い目標に挑戦
④基礎的な共有の課題＋高度なジャンプの課題

講演ではこの後、①を体験するためのワークショップとして、4～5人の班に分かれて、「他己紹介」と「英単語しりとり」を行いました。役割分担や目標・課題の設定のしかた、発表会のポイント、評価方法等についても具体的に紹介されましたが、詳細は「長崎の高校教育」に譲ります。

### 記念講演についての参加者の感想（一部）

○英語教育が市場化されていくことの問題点が整理されて大変参考になりました。生徒を無視したビジネスありきの入試制度改変に憤りを感じました。

○協同学習の取り組みについて具体的方法を教えていただき、自分でもやってみようと思いました。元気をもらえました。

○この数年、授業で悩んでいる私に、一つのきっかけとなるお話しでした。まず一つ行動を起こしてみたいと思いました。

# 全国学校事務研究集会を長崎で開催

## 全国各地から91人が参加

全国からの多数の参加者で夕食交流会も大盛況

8月4～5日の2日間、全教事務職員部の推進委員会が主催する全国学校事務研究集会が長崎市で開催され、全国各地から91人の参加がありました（うち県内は12人）。集会初日の記念講演では、被爆者の城臺美弥子さんに「ナガサキを最後の被爆地に 核廃絶をめざして行動しよう」と題してお話をしていただきました。被爆者から直接被爆体験を聞くのは初めてという人もいて、参加者に大きな感銘を与えるものとなりました。

講師の城臺美弥子さん

4日の後半と5日は、「①学校事務職員の仕事と役割」「②子どもの学習権を守るための私たちのとりくみ」「③ゆきとどいた教育をめざす自治体へのとりくみ」「④仲間とともながり、安心して働き続けるために」の4つの分科会に分かれて、提出されたレポートを軸に討議を行いました。

参加者からは「事務職員として、他職種や子どもたちとどうかかわっていけばよいか、ずっとかかえている課題についてヒントをいただいてよかったと思います」「事務職員としての孤独を感じたり悩んだりされながらも素晴らしい事務職員として働いておられることに感動しました」等の感想が寄せられています。

4日の夜の夕食交流会では、長崎ならではのアトラクションとして、中国国家一級俳優変面大王と呼ばれる変面師の姜鵬さんのショーもあって、大いに盛り上がりました。

長崎高教組事務現業職員部では、昨年8月に現地実行委員会を立ち上げて準備を進めてきました。集会中も、集会の速報「でんでらりゅう」を7号まで発行するなどして奮闘し、集会の成功に大きく貢献しました。

変面師の妙技に大喝采
（交流会にて）

# 青年部のつどいに10人が参加

## 特別支援教育等で活発な意見交換

8月11日、川棚町のくじゃく荘で、夏季教研の分科会と並行して、青年部総会および青年部のつどいが開催されました。

総会では、片山部長、渋谷副部長が留任し、下岸副部長が新たに承認されました。18年度は中四九ブロ青年教職員学習交流集会を長崎で開催できたことで、青年部が集まることの素晴らしさをお互いが確認しあいました。

今年度もすでに若者憲法集会や被爆遺構めぐりガイドなどに青年部教員が積極的に参加していることが報告されました。今後は、中四九ブロック青年教職員学習交流集会が島根で、全国青年教職員学習交流集会が東京で開催されます。青年教職員が集まって情報交換ができる、とても刺激的で有意義な会合なので、まだ参加したことのない若い先生方の積極的な参加を呼びかけようと話しました。

総会終了後の青年部のつどいでは、「ぶっちゃけ楼」のタイトルのもと、職場の悩みや経験を語り合いました。参加者は教員採用試験を今年度受験している4人を含めた計10人で、活況を呈しました。主な内容としては、初任研や若手研など研修について、教員採用試験の対策について、日常的な特別支援教育の取り組みについて、意見を共有しました。特に最後の特別支援教育については、一人で抱え込まずにチームで対応すること、困っている保護者への支援、そのためにスクールソーシャルワーカーを活用することなど、活発な意見交換がなされました。年齢も近く、和気あいあいとした温かい雰囲気で互いに交流を深めることができました。

青年部では様々な取り組みを行っています。職場では言えない悩みを抱えた方、若手教員同士の交流を求めている方、研鑽の機会を求めている方、多様なニーズに対応して若手教職員の支援に努めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。（青年部役員）

# 「長崎を最後の被爆地に」の声を世界に

## 今年も平和行進や原水禁世界大会等のとりくみを展開

広島・長崎の被爆から74年目となった今年の夏も、長崎高教組は、核兵器廃絶のための様々なとりくみに参加しました。

### 国民平和大行進にのべ14人が参加

今年の国民平和大行進は8月1日に佐世保の三川内で佐賀からの引き継ぎ集会を行い、濱本佐世保支部長のあいさつで県内行進がスタートしました。1日(三川内～ハウステンボス)2人、2日(川棚～東彼杵)1人、3日(東彼杵～大村)1人、4日(大村～西諫早)2人、5日(西諫早～日見)1人、6日(日見～平和公園)7人が参加しました。参加者がいない区間があったので全コースの参加は実現しませんでしたが、最終日は台風接近にも関わらず初めての参加者を含めて7人が参加し、爆心地公園に到着。今泉副委員長の司会で終結集会を行いました。高教組の参加者はのべ14人でした。

夏休みでも多忙なため、年々参加者が減り、固定化され、年齢が高くなっているのが気がかりです。来年は6月末に長崎をスタートします。若い先生方の参加、協力をお願いします。

三川内での佐賀からの引き継ぎ

### 原水禁世界大会では要員として活躍

長崎高教組は毎年、原水禁世界大会の実行委員会に参加し、大会を支える要員として力を尽くしています。今年の原水禁世界大会・長崎は、7日に開会総会、8日に分科会や被爆遺構めぐり、9日に閉会総会が行われ、約5千人が参加しました。

高教組からは、5日の袋詰め作業や6日の体育館の設営、7日の開会総会受付、8日の分科会責任者、9日の閉会総会受付と体育館の撤収など10人が要員として貢献しました。また8日は、少年少女のつどいに2人がスタッフとして参加、被爆遺構めぐりでは10人がガイドを務め、浦上天主堂、山王神社の被爆くすのき、一本柱の鳥居などを案内しました。今回は青年部の2人を始め、半数が初めてガイドを務めました。ガイドを青年教職員が積極的に務めたことは、被爆地の高教組として大変意義深いものでした。

原水禁世界大会・長崎の閉会総会
(第１会場の長崎市民体育館)

### 「教職員平和のつどい」に全国から80人が参加

8日の夜に行われた「教職員平和のつどい」には、全国から80人、長崎高教組からは7人が参加しました。長崎商業学校の元教師で、被爆者である自由律俳人松尾あつゆきさんの孫にあたる平田周さんの講演は、被爆体験をどうやって継承していくかを考える一つのヒントとなりました。また、各自が「長崎と私」というテーマでメッセージボードを作り、一人一人が平和な世界構築、核廃絶、憲法を生かそう守ろうとアピールをし、大変盛り上がったつどいとなりました。

### 9日に「ヒバクシャ国際署名」の街頭署名活動

長崎工業全日分会では、9日の平和集会後、学校近くのバス停で「ヒバクシャ国際署名」の街頭署名活動を行い、30分で周辺の高校生を含め45筆が集まりました。原爆の日、平和集会後ということもあり、高校生を始め市民の関心の高さを感じた署名活動となりました。

メッセージボードを掲げる
「教職員平和のつどい」の参加者

## 定通部定期大会・県教研定通教育分科会

### 県教委交渉の方針等を協議し、エンカレッジコース等について学習

定通部は、8月3日、長崎高教組会館にて定期大会を開催しました。出席は4分会5名(委任状7分会)でした。役員改選では、濱本部長、鳥山副部長は留任し、新しく鳴滝通信の井坂さんが副部長に選出されました。

昨年度の総括の中で、文科省交渉、全教定通部定期総会、全国定通教育学習交流集会、中四九ブロック学習交流集会、定通部定期大会、県教研定通部分科会、ゆめおす特別講演会等、各活動の参加者が活動内容や感想を還流報告し、出席者の情報共有の場にもなりました。また、「定時制・通信制教育の充実を求める署名」(34分会から1063筆)は、文科省交渉の場で手渡されたことも報告されました。

今年度は、県教委交渉の年です。佐世保中央のエンカレッジコースの廃止を最重点に、日本語を母語としない生徒の受け入れ、教科書・夜食費補助と給付型奨学金の充実、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・キャリアサポートスタッフ継続配置などを重点に交渉を行うことを決定しました。

定期大会終了後、引き続き、県教研定通教育分科会を開催し、佐世保中央高校夜間部で昨年度から始まったエンカレッジコースの制度や現状についての学習、問題点の整理を柱に討議を行い、他2本のレポートについても報告がありました。

終了後は、夜景と港を肴に交流を深めました。

定通部定期大会の様子

## 障害児教育部定期大会・学習会

### 今年度の運動方針を協議し障害者福祉の具体的な事例等について学習

障害児教育部は、8月3日、大村市のプラットおおむらで定期大会を開催しました。本年度の役員として、部長・松尾圭一郎(虹の原)、副部長・井川繁美(ろう)、田中雄一(桜ヶ丘)の3人を承認しました。昨年度と同じメンバーですが、将来を見据えて、新しい役員を育てていく必要があることも話題となりました。

運動方針としては、特別支援学校の組織の拡大のために「障教部だより」を充実させ、障教部の活動を未組の先生方にも知らせるよう工夫すること、特に教研活動を紹介すること、特支の勤務条件や教育条件を充実させるために 組合の存在が重要なことを知ってもらうことなどを確認しました。また、1月11～13日に神戸、2月15～16日に北九州で行われる学習交流集会にそれぞれ2名と4名の参加を実現し、年度末の還流学習会に多くの人が集まることを確認しました。

各分会から学校の様子が報告され，多忙化や人員不足・設備不足など問題点が目立ちました。盲学校からは，一般の方々を招いて学校紹介をするイベントを行うこと、安全衛生委員会のメンバーに職場代表が入っていないこと等の報告がありました。

大会終了後、引き続き、学習会に移りました。本年度は、社会福祉法人ウイキャン・サポート長崎市障害者相談支援事業所「つどい」の城戸修一さんに「障害者福祉の現状について」と題して講演をいただきました。最初に障害を持っておられる方が表舞台で活躍されている例をたくさん挙げていただき、その上で、障害者がおかれている環境を理解確認するために、障害者手帳の内容や主に長崎市が行っている福祉サービスの現状をお話ししていただきました。

サービスの種類はたくさんあっても、事前の申請が必要だったり、条件により受けられなかったり、個々の障害者で見ると内容に過不足が生じ、うまくいかない事例もあるとのことでした。また、障害者本人だけではなく、周囲の特に家族への支援は不十分であり、支援を拒否する事例も多いということでした。後半は支援のやり方の一つとして「ストレングスモデル」の紹介でした。障害者だけでなく、すべての人への支援や教育の一つの形として大事なことだと感じました。ただ、万能ではなく適さない事例もあることも事例を挙げて説明していただきました。

最後に支援や相談に大事なことをいくつか挙げていただいたのですが、「本人の意向を尊重」「サービスが途切れない支援」「家族支援の重要性」などが印象に残りました。講演終了後も個別の事例への質問にも熱心に対応していただき、予定時間を大幅に超える学習会となりました。